

「光と闇②」 ～光の中を歩む言葉～

ヨハネ26：1-16

2024 年の歩み

教会のテーマである「変遷」と「変貌」、みなさまどんな年だったでしょうか。人間にとって変化すること、変わることは、これほど難しいことはありません。

変遷、変貌を遂げるとき、イエス様であれば神様に聞き従い、神様の御手の中で行われていきますが、私たちはそうはいかないのです。変われと言われても、自我と頑なさがあるから、変わりたくないという思いがあります。その背景には、多くのことを否定されていたり、自分のことを間違っているとされている気がして、変わることがすごく嫌いで、苦しく、難しいのです。変貌を遂げるとき、命がけであり、心が痛む時がありますが、義のために迫害されるのなら幸いです。この御言葉に立て、主はともにいる、恐れずに進んでいきますと決断することです。

自分の考えや、人の言葉で右往左往して生きて来た人が、神様の言葉を選び、決断をすると、恵まれて、与えられるのです。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られたものです。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」Ⅱコリント 5:17

サザエさん 磯野家の話

浪平さんは本を見ながら囲碁をどう打つか研究している中、マスオさんがバイオリンを弾いていますが、下手なため、だんだん腹が立ってきます。「うるさい！」と言えば傷ついてしまいます。そんな時、家族を大切にしている浪平さんはマスオさんにどのように言ったのでしょうか。「ラジオの音量をすまんが下げておくれ」と言いました。ラジオであればプロが弾いており、その音色はきれいで上手いはずである。そのラジオの音量が大きいから下げてくれと言えば、マスオさんのバイオリンを弾きたいという思いを削ぐことなく、傷つけることはないだろうと思ったのです。その言葉にマスオさんは、喜んでバイオリンをしまいました。この話を通して、私たちの言葉というものは多くの意味があるのだということを感じさせられます。

言葉による影響

『初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であつた。』ヨハネ 1:1

『すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。』ヨハネ 1:9

25 日のクリスマスのとき、また、12 月アドベント第 1 週の時に学んだように、光りが現れるとある一人は立ち上がり、ある一人は倒されるんだということを学びました。それは、その言葉によって、私たちがそうされていくのだということを考えながら、闇の中を歩む人生から光の中を歩む者へなりたくて願います。私たちの人生を壊す人、脅かす心は、私たちの気づかないところで洗脳されていきます。例えば、病気は自ら受け入れて、そして、受け取っていくのです。このように自分の中で起きることを受け取っていきます。

人の価値観は人それぞれです。何かを選択しなければいけないとき、どちらも正しい声を聞いたり、様々な情報から、どのように何を選んでいるのでしょうか。聖書は私たちに本当の価値観を教えようとしているのです。

光の中を歩む言葉

『さて、イエスがベタニヤで、ツァラアトに冒された人シモンの家におられると、ひとりの女がたいへん高価な香油の入った石膏のつぼを持ってみもとに来て、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんなむだなことをするのか。この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」マタイ 26:6～9

『イエス様の頭に、金額にして 300 万円もの高価なナルドの香油を注いだマリヤに対して、質素な生活を送っていた弟子たちは、「貧しい人たちに施しができたのに。」と、憤慨しました。また、お金の管理を任されていた十二弟子のユダは、実はお金を横領して私腹を肥やしていたので「お金がもったいない！」と、腹を立てて、怒ったのです。イエス様は、「なぜ、この女を困らせるのです。わたしに対してりっぱなことをしてくれたのです。貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてくれたのです。まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」マタイ 26:10～13

と、マリヤを擁護されました。暮らしの状況はマリヤも質素でしたが、マリヤはイエス様の言われることにいつもよく耳を傾けており、素直に真っすぐに行いました。

聖書に出てくる 3 人のマリヤ、7 つの悪霊にとつかれていたマグダラのマリヤも、病の中で罪人だと言われていたベテパゲのマリアも、イエスキリストを身ごもって母として十字架を目の前にしなければならなかったマリヤも、今は名前の通り高められ、みんなから称賛されています。この 3 人のマリヤは、受難を喜びの中で人間の価値観でなく、イエス様を葬っていった、その備えをした道添えをした人たちです。私たちもこのようにマリヤの様な生き方をしていきたいものです。

世の中には多くの偽善と偽りがあります。その中には偽りの情報によって多くの人達がその言葉を信じ、また、様々な報道が出る中、何が正しいのかわからないのです。私たちは、その情報にいつも惑わされます。イエスキリストは私たちに、私は、その神であるといつも言っています。私たちは、いつもその目線が持てず、言ってはならないこと、素直でない言葉を言ってしまう、壊してしまいます。

弟子たちは、素直ではありませんでしたが、マリヤは、イエス様の言うことを信じ、素直でした。

私たちも、間違った情報に右往左往をさせられず、人に何と言われようが、素直に生きることです。毎日起こる様々な出来事や不安なこと、影響させられずに、素直に真っすぐ、神様と向き合い、進んでいけるようになりたいのです。そうすると、進むべきところに行くことができるのです。

暗闇の中を彷徨う時、光に向かって歩むには、神様に聞かなければならないのです。どのようにすればよいのか祈ることです。間違った多くの情報を聞くのではなく、神様に聞くのです。してはならないことは、悪い自分の感情の声と、その陰にいる悪魔の声を聞くことです。神様の言葉に聞き従い、信じて進むこと、私たちが願うこと、そして諦めていたことさえも与えられるのです。

イエスキリストの言葉を素直に聞く

『御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。』ガラテヤ 5:22～23

私たちが言葉を発するときに気を付けなければなりません。愛でないならやめなければなりません。そこに喜びがないのならやめなければなりません。そこに平安がないのならやめればよいのです。私たちがマリヤのようにイエスキリストの言葉を素直に聞き行おう者になりたいのです。もし問題の中になるのなら、持論を捨てて、神様に祈り、聞き従うことです。神様は聞いて、変化をもたらしてくれるのです。

最後に

来年のテーマは「柔和」です。

柔和なものは幸いです。その人は地を相続するからです。マタイ 5:5
変遷・変貌を遂げるその先は柔和な人です。私たちはその御言葉に立ってきたいのです。神様が私たちに変貌をもたらすその理由は、地を受け継がせるためであることを知ってなければなりません。あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。清さを求める人は神様が見えると言っているのです。そのためには、心貧しく神様に近づこうとしなければなりません。人が神様に近づくならその人は清められると書かれていることを忘れてはいけません。私たちが願うことは神様の声を聞くことです。自分の心の声を聞くのではなく、神様の声を素直に聞いて、心の声の深いところにある本当の自分の素直な声を探してください。自分の声と神様の声は一致しているはず。それは、造った人は神様であるからです。神様が素直な方であるから、あなたは素直でない訳がありません。神様が愛だから、あなたが愛でない訳がありません。神様はあわれみ深い方なので、あなたはあわれみ深いのです。何か問題が起きているのなら、神様はあなたに柔和な者にさせたいのです。あなたに信じていることができる心を与えたいのです。神様は信じる者に奇跡をもたらせる方です。問題を起こすのは神様がしているわけではなく、自らの外して生きるとき、問題の中に入っていくのです。しかし、神様はあなたを戻しつつ、あなたに聞き従う者に、柔和なものを、御霊の實を結ぶ者にしたいのです。だから、そこに行くことを赦され、出口を用意されたのです。私たちは柔和な者として新年を迎えられるよう変遷を遂げたいのです。神様を信じる心が豊かに注がれ、いつも主とともにいて、素晴らしい新年を迎えることができるように導いてください。

(要約者：西寄 達也)

(2024 年 12 月 29 日)